

6英

vi

大和資雄

的であるからです。「心の王
 國」跋から断章取義しますと
 彼も亦「どこを見ても、悲し
 むべき私の矛盾の暗い影がさ
 してぬない所はない、或はイ
 ゴイスムの寒い風が人面を吹
 くばかりである」所の此の世
 界に安住し得ず、「原因を
 去つて結果に眼を注いだ」の
 でした。「更に一歩を進め
 る、結果をも放棄して、道程
 に眼を注いだ」のでした。私
 は「薔薇油公」第三篇の二章
 にある言葉葉を思い浮かべます。
 「縦令我々がどんなに罪障
 深い人間であらうとも、而も
 尚依然として他人が我々を愛
 し、そして我々も亦依然とし
 て他人を愛することが出来
 る、それで結構ぢやないか」